

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)									
事業名	大学病院就業環境改善推進事業			担当部局庁	高等教育局			作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	事業開始年度：平成21年度 事業終了年度：平成25年度			担当課室	医学教育課大学病院支援室			大学病院支援室長 手島 英雄	
会計区分	一般会計			政策・施策名	個性が輝く高等教育の振興 IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—			関係する計画、 通知等	医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進につ いて (平成22年4月30日 厚生労働省医政局長通知)				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	地域医療が崩壊する中で大学病院に患者が集中し、医師や看護師が過重労働を強いられていることから、医師や看護師が行っている事務的な作業を補助する職員(医師事務作業補助者)を配置することにより、医師や看護師の業務負担を軽減させて本来の医療業務に専念させ、患者への医療サービスを向上させる。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	大学病院における検査の予約管理、書類や伝票の整理、患者の転院先病院・診療所との連絡調整、患者の案内、院内の物品の搬送、ベッドメイキングなど、医師や看護師以外の者であっても行うことが可能な作業を担当する医師事務作業補助者を大学病院に配置し、医師や看護師の業務負担の軽減を図る。 (補助金補助率：定額補助)								
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他								
予算額・ 執行額 (単位：百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		補正予算	2,175	2,066	2,066	2,066	0		
		繰越し等	0	0	0	0			
		計	0	0	0	0			
	執行額		2,175	2,066	2,066				
	執行率(%)		100.0%	100.0%	100.0%				
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	医師事務作業補助者の配置人数			成果実績	人	1,392	1,234	1,243	1,129
				達成度	%	160%(870)	109%(1,129)	110%(1,129)	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	プログラム実施数			活動実績 (当初見込み)	件	79	79 (79)	79 (79)	79 (79)
単位当たり コスト	26.2百万円(百万円/件)			算出根拠	単位当たりコスト ＝24年度執行額(2,066百万円)/プログラム実施数(79件)				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内訳	費 目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	大学改革推進等補助金		2,066百万円	0百万円	※所期の目標を達成したことから、25年度限りで廃止する。				
	計		2,066百万円	0百万円					

事業所管部局による点検						
	項 目		評 価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	・深刻な医師不足問題や地域医療の崩壊により、地域医療の最後の砦である大学病院に患者が集中し、医師は過重労働を強いられている。 ・本事業において、医師事務作業補助者（医療クラーク）等を採用し、関係職種間の役割分担を推進することにより、医師等の業務負担の軽減を図り、大学病院の教育・研究機能を強化することは、広く国民のニーズがあり、国が実施すべき優先度が高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	・診療報酬上の算定の対象外となっている大学病院本院（特定機能病院）に対して、医師等の勤務環境の改善に関する計画に基づいて、一定の基準に従って、支出先を選定している。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・各大学病院において、医師事務作業補助者の活用により、医師の超過勤務時間が減少するなど業務負担が軽減する傾向にあり、着実に成果が現れている。 ・例えば、国立大学病院においては、自己負担分も含めて雇用している医療クラーク・看護補助者等の人数が増加（平成22年6月：3,240人→平成24年6月：4,287人）するなど、関係職種間の役割分担の推進をより一層図っている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		－			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	・本事業により、各大学病院に医師事務作業補助者を配置することで、医師や看護師の業務負担を軽減し、本来の医療業務に専念することが可能となっている。 ・また、国立大学病院においては、自己負担分も含めて雇用している医療クラーク・看護補助者等の人数が増加（平成22年6月：3,240人→平成24年6月：4,287人）しているが、本事業の実施が影響を与えたものと推測される。 ・平成25年度においても、引き続き、各大学病院においてより効果的に医師事務作業補助者を配置し、医師及び看護師の業務負担の軽減により、患者への安全な医療サービスの向上を図る。					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所期の目標を達成したことから、平成25年度をもって廃止する。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
－						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0172	平成23年	0151	平成24年	0161

文部科学省
2,066百万円

（対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。）



【補助】

A. 大学(全79件)
総額 2,066百万円

（大学病院において医師事務作業補助者を配置し、医師や看護師の業務負担を軽減する。）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.杏林大学			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
人件費・謝金	病棟看護助手業務、病棟クラーク業務	41			
その他	ベッドメイキング業務、SPD(物品等搬送)業務、洗浄・消毒・滅菌業務等	25			
計		66	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	杏林大学	杏林大学病院業務改善推進事業	66	—	—
2	大阪大学	大阪大学病院業務改善推進事業	66	—	—
3	東京大学	東京大学病院業務改善推進事業	49	—	—
4	東北大学	東北大学病院業務改善推進事業	47	—	—
5	岩手医科大学	岩手医科大学病院業務改善推進事業	41	—	—
6	帝京大学	帝京大学病院業務改善推進事業	41	—	—
7	日本医科大学	日本医科大学病院業務改善推進事業	41	—	—
8	東京女子医科大学	東京女子医科大学病院業務改善推進事業	40	—	—
9	九州大学	九州大学病院業務改善推進事業	37	—	—
10	名古屋大学	名古屋大学病院業務改善推進事業	37	—	—